

認定 NPO 法人 WE21 ジャパン・ほどがや
2020 年度 事業報告

(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

I 資源のリユース・リサイクルを推進する事業（リユース・リサイクル事業）

(1) WE ショップ星川店・天王町店を拠点としてリユース・リサイクル事業をすすめ資源の有効活用を図りました。ショップの売上年間目標額を 星川店 550 万円 天王町店 580 万円としましたが、新型コロナウイルス感染拡大による休業、短縮営業および外出自粛などの影響で客数が減少していることから下半期に目標額を修正し、星川店 430 万円（月間 42 万円）天王町店 440 万円（月間 45 万円）としました。

【星川店活動報告】

年間売上実績：4,595,260 円（目標比 106,8% 前年比 73,6%）

営業日数：201 日（前年比 85%） 客数 5463 人（前年比 78%）

寄付件数：811 件（前年比 70%） 新規寄付者数 12 件（前年比 31%）

ショップボランティア延べ人数：529 人（前年比 85%）

1) スタッフ 3 人体制でショップ運営を行いました。毎月のショップ運営スタッフミーティングでは、事後の点検評価をし、課題があれば対策を講じて業務の効率化と顧客ニーズの確認などを共有しました。今年は 4 月 8 日から 5 月 31 日まで緊急事態宣言をうけてショップを休業。再開後は「密」を避けるためショップ内のレイアウトを大幅に変えて展示商品縮小を余儀なくされましたが、フェア開催が難しいため新たに着物の常設コーナーを設けました。ショップからコロナ感染者を出さない様に心がけ、マスク着用、消毒、ソーシャルディスタンスを守るためにポスターを作成し、注意喚起を促してレジ前の飛沫防止カーテンをしました。この状況下でもボランティア参加協力していただいた方もあり、ショップ内での感染防止ルールを作り、協力励行してもらいました。

2) 「密」となる従来型のイベントは開催出来ないが、販売方法の工夫をし、ショップに出す品物の厳選や商品展示に細やかな対応をしました。しかしながら、コロナ禍でもショップに来られる方、寄付品を持って来られる方への感謝の気持ちを示す「共通感謝券配布」を 8 月と 1 月に行いました。お楽しみフェア月間として 9 月よりカテゴリー毎に半額販売を実施してお客様を大いに盛り上げました。

3) 寄付品、来店者共に減少傾向ではありますが、地域の活動団体との交流と情報発信場所の役割として、前年度に引き続き、廃油の回収、資源を生かす取り組みとしての羽毛の回収（羽毛布団 6、ダウンコート 22 枚）を実施しました。地域活性化につながる地場野菜販売も二年目になります。これらはお客様に徐々に浸透し好評を得ています。

4) 「着物、帯、和装小物」など着物コーナーを常設し、新たに着物アドバイザーが対応出来る日を設けました。また普段から着物、和装小物等の値付けを行って整理整頓をしている御陰で、お客様への対応もでき、さら到来店者の楽しみとなり、売り上げ向上に繋がりました。

5) リメイク作品を楽しみに来店する方も増えています。リメイクチームの協力でマスク作りは次々と新作が出来て、

今や星川店の目玉商品になっています。リメイクの作品作りと広報活動と共に今後の課題として取り組みます。

売上実績(目標)

4月 営業 日数 (5)	短縮営業 4/1~4/7 10:30~16:00 緊急事態宣言発令のため休業 4/8~5/6	感染防止対策を話し合う マスク、手洗い、換気、手指消毒、店内消毒の徹底、 3密を避ける レジ前飛沫防止シートの設置など	64,221円 (10万円) 客数 91名
5月 (0)	休業延長 5/7~5/31	感染防止対策を考えた店内整理、在庫整理と レイアウト変更で再開準備	0円 (20万円)
6月 (22)	営業時間 11:00~17:00 リメイク品、マスク売上好調 文具、生地、手芸品、食器	寄付品受け取り中止 試着室使用中止とする ショップ感染防止対策を掲示 着物コーナー常設 (DM221 通発送/HP で広報) 10円以上募金 (11,381円) 店内にパソコンを設置しリメイク品の映像を流す	435,096円 (30万円) 客数 446名
7月 (21)	営業時間 10:30~17:00 ストック品、雑貨類、ガラス類半 額	寄付品受け取り対応、試着室対応実施 共通感謝券配布 (31日まで、800円以上お買い 上げの方) 130枚 リメイク品新作 HP 掲載 熊本豪雨災害緊急店頭募金(7/6~8/14) 11,219円 コロナ禍による生活困窮者支援呼びかけチラシ配布 募金箱設置	442,479円 (50万円) 客数 504名
8月 (16)	共通感謝券使用期間 8/1~8/31 着物、衣類半額など 夏季休業 8/8~8/16	共通感謝券回収枚数 37枚	396,215円 (45万円) 客数 446名
9月 (20)	手芸品、文具、アクセサリ半 額など	9/1~裕着物を出す。 着物コーナーの整理、移動など (防災対策)	407,260円 (60万円) 客数 516名
10月 (22)	貧困なくそうキャンペーン フードドライブ実施 10/1~10/31	10/16 売上 41,220円 (寄付金額 34,530 円) 100円以上全品 10%オフ (リメイク・フェアト レード除外) フードドライブ 1箱寄付 募金 26,613円	544,037円 (42万円) 客数 630名
11月 (19)	お楽しみ販売期間: バッグ、 漆器・食器 生地と毛糸、ウー ル着物 衣類 文具類など	着物アドバイザーが月1回 (第2木曜日) 参加 ボディの着物をこまめに着せ替える カテゴリー毎の半額販売が順調	501,734円 (42万円) 客数 656名
12月 (19)	衣類・着物、花器 コート・ストール類半額 冬期休業 12/26~1/6	着物半額終了後、リメイク用ファイバーに選別	571,574円 (42万円) 客数 626名

1月 (16)	初売り 1/7,8 緊急事態宣言発令のため短縮 営業 1/12～ 10:30～16:00 お年玉半額券配布 衣類、アクセサリ、毛糸生地 の半額	初売り初日 4 万円超え お年玉半額券 配布 68 枚 回収 44 枚 アルコール自動噴霧器設置	403,323 円 (42 万円) 客数 478 名
2月 (18)	緊急事態宣言延長のため 短縮営業期間延長 ～3/7 コート、ストール、マフラー、和装 ショール類半額 手芸品 日用雑貨、アクセサリ ー半額	カテゴリー毎の半額販売の種類を増やす。 冬物在庫処分 20 周年記念ニュース配布	382,661 円 (42 万円) 客数 464 名
3月 (23)	緊急事態宣言再延長のため 短縮時間期間延長 ～3/31 3.11 を忘れないキャンペーン 着物・和装小物ミニフェア	3.11 を忘れないデー 売上 33,520 円 募金 (10～3 月) 13,043 円	446,660 円 (42 万円) 客数 606 名

【天王町店活動報告】

年間売上実績：4,554,138 円（目標比 103,5% 前年比 73,5%）

営業日数：199 日（前年比 85%） 客数 5784 人（前年比 77%）

寄付件数：1280 件（前年比 74%） 新規寄付者数 43 件 前年比 82%

ショップボランティア延べ人数：485 人（前年比 80%）

- 1) スタッフ 3 人体制でショップ運営を行いました。今年は新型コロナの影響で年間計画がすべて中止となりましたが、毎月スタッフミーティングを開催し、コロナ禍の中でどのように売り上げを伸ばすか話し合いながら密にならないように工夫してショップ営業を行いました。
- 2) 8 月 19 日（水）エコものセンター見学、WE21 ジャパン・海老名店を訪問しました。
エコものセンターを実際に見ることで、流れやルールを知ることが出来て良かったです。海老名店では、コロナ禍の中で定期的な消毒等、実際に行っている様子が確認できて、ショップ運営に参考になりました。
- 3) WE ショップが循環型拠点として続けていくために地産地消の朝市街道の野菜販売に 10 月～参加しました。
- 4) フェアトレードフェアを年 1 回開催しました（12 月 7 日～12 日）
・フェアトレード品を広めるとともに支援を身近に話すきっかけとなりました。
・認定 NPO 法人シャブラニールより 1 万円の箱を 2 回購入し販売しました（7 月、10 月）
- 5) 3・11 を忘れない
東北支援品（ムラカミの海産物、百屋のカレー）を 9 月、3 月に販売しました。
- 6) 初売りで初めてお年玉半額券を 500 円以上購入したお客さんに配布しました。
配布枚数：72 枚 回収枚数：51 枚

- 7) 就労支援を2020年1月～2021年1月まで4期受け入れました(女性1名)。
- 8) グリーンダウンプロジェクトで羽毛布団19枚、ダウンコート21枚を回収しました。
- 9) 衣類や雑貨を寿地区センター、リメイク用としてTシャツを地域活動支援センター「トラック」に寄付しました。
- 10) イオンの閉店により商店街の人どおりが少なくなり、セールのチラシ等が撒けなくて、今後W Eを地域にどのようにアピールしていくことが課題となっています。

売上実績(目標)

4月 (4)	短縮営業 4/1～4/7 10:30～16:00 緊急事態宣言発令のため休業 4/8～5/6	感染防止対策を話し合う マスク、手洗い、換気、手指消毒、店内消毒の徹底、 3密を避ける レジ前飛沫防止シートの設置など	106,409円 (10万円) 客数79名
5月 (0)	休業延長 5/7～5/31	感染防止対策を考えた店内整理、在庫整理、レイアウト変更で再開準備	0円 (35万円)
6月 (22)	営業時間 11:00～17:00 ガラス食器、子ども服 雑貨、食器、週ごとに半額	寄付品受け取り中止 試着室使用中とする ショップ感染防止対策を掲示 10円以上募金(6,424円)	433,084円 (43万円) 客数575名
7月 (20)	営業時間 10:30～17:00 夏物衣類半額、 パンツスカート200円均一、ワンピース半額など	寄付品受け取り対応、試着室対応実施 共通感謝券配布(31日まで、800円以上お買上げの方)130枚 熊本豪雨災害店頭募金(7/6～8/15)10,764円 シャプラニール フェアトレードサンプル品販売 (18点24,200円税込) コロナ禍による生活困窮者支援呼びかけチラシ配布 募金箱設置	429,830円 (65万円) 客数573名
8月 (17)	共通感謝券使用期間 8/1～8/31 ガラス食器3点100円 陶器 半額など夏季休業 8/9-8/16	共通感謝券回収枚数45枚 エコものセンター&えびな店見学(8/19スタッフ) 東北支援品販売(77点22,709円税込)	350,948円 (45万円) 客数492名
9月 (19)	夏物衣料、靴、バッグ半額 2点以上お買い上げ半額など	東北支援品販売(82点24,680円税込) シャプラニール第2弾販売(23点22,990円税込)	377,654円 (50万円) 客数484名
10月 (23)	貧困なくそうキャンペーン フードドライブ実施 10/1～10/31 朝市街道野菜販売開始	17日売上41,964円(寄付金額35,755円) 100円以上半額(フェアトレード除外) フードドライブ2箱寄付 募金26,437円 東北支援品販売(5点1,555円税込)	568,395円 (45万円) 客数744名
11月 (19)	1000円以上お買い上げで半額など	正月、クリスマス用品出す	464,642円 (45万円)

			客数 582 名
12 月 (19)	フェアトレードフェア 12/3～8 衣類、雑貨半額、1000 円以上お買い上げで半額 冬期休業 12/7～1/6	フェアトレードフェア売上 (78 点 44,838 円税込) WE フェスタ品などを出す ・韓国慶南地域自活センターとの経験交流事業の活動紹介動画撮影に協力 12/3	545,074 円 (45 万円) 客数 727 名
1 月 (17)	初売り 1/7,8,9 緊急事態宣言発令のため短縮営業 1/12～10:30～16:00 お年玉半額券配布、ロングコート、ワンピース、子ども服の半額	お年玉半額券 配布 72 枚 回収 51 枚 新しいエアコン設置 アルコール自動噴霧器設置	402,256 円 (45 万円) 客数 436 名
2 月 (18)	短縮営業期間延長～3/7 10:30～16:00 食器、雑貨、衣類半額 1000 円以上お買い上げ半額	セールの案内を工夫する。 20 周年記念ニュースを配布 東北支援品販売 (51 点 16,165 円税込)	380,972 円 (45 万円) 客数 540 名
3 月 (21)	緊急事態宣言再延長のため短縮営業期間延長～3/31 3.11 を忘れないキャンペーン 1000 円以上お買い上げ半額	3.11 を忘れないデー 売上 21,330 円 募金 (10～3 月) 19,043 円 東北支援品販売 (175 点 59,559 円税込)	494,874 円 (45 万円) 客数 552 名

(2) 環境に配慮した寄付品の回収に努めました。

緊急事態宣言による休業明けの 6 月は、感染予防対策および受け取り態勢整備のため寄付品の受け取りを中止しました。7 月からは、「受け取り後 1 日置いてから店頭に出す」などの対策に留意しながら受け取りを再開しました。自粛期間に自宅の断捨離をすすめた人が多く寄付品も増加しましたが、WE ショップが「SDG s の目標 12：持続可能な生産・消費形態を確保する（つくる責任・つかう責任）」を推進する店であることがひと目でわかるよう、周知することが必要です。

販売した衣類点数 星川店 2822 点 CO₂削減量 5,43 t 天王町店 3997 点 CO₂削減量 7,7 t
ショップで販売出来なかった衣類は WE21 グループ提携先のナカノ株式会社でさらにリユースリサイクルされます。同社が開発したエコ手袋の販売も行いました。ガラス・陶磁器についても、飯室商店、木村管工（株）へ搬出しました。ビンの再生や路盤材などに再資源化されます。

(3) 寄付品の有効活用 リメイク品の企画開発 など、リユース・リサイクル部会で検討しました。

・9 月から着物のほどきの一連の作業（ほどき、洗濯、アイロン）に対して 500 円の感謝券を渡すルールを決め、作業に参加するモチベーションアップを図りました。

・リメイク売上 924,907 円(前年度実績 437,503 円 前年比 211% 目標比 231%)

着物売上 621,053 円(前年度実績 729,361 円 前年比 85%)

さき織りチーム 講習会は開催しませんでした。

ぞうりチーム メンバー 3 人各々が自宅で作成 ショップ販売に協力しました。

寄付品の有効活用にご貢献しました。

リメイクチーム 講習会は開催せず、主要メンバー 7～8 人が各々の特徴を生かした作品をつくり、

売上げへの多大な貢献となりました。マスクは 1295 枚売り上げました。

リメイクチームのルールを再度確認しました。作り手を増やすことが課題です。

今年度はコロナ禍のなか、3 密を防ぐことも鑑み、講座などの開催はせず、各々メンバーの特徴を生かした作品づくりに集中しました。昨年に比べ目標値を下げた事もあり、上期にクリアした事は大きな成果となりました。着物フェアの開催は中止しましたが、コーナーを常設しリメイクとの調和をはかることができました。

・ほどがや街の応援隊の活動 PR 展に参加。リメイク品の展示をしました（保土ヶ谷区役所 12/19～1/7）

(4) CO2 削減をめざし、廃食油、携帯電話、羽毛製品の回収をすすめました。

① TOKYO 油田（株式会社ユーズ）の回収ステーションとして使用済み油の回収を継続しました。

廃食油回収量 星川店 180 kg（前年 205kg） CO₂削減量 468 kg

天王町店 195 kg（昨年 270kg） CO₂削減量 507 kg

廃食油リサイクルハンドソープの販売取り組みを開始しました（9 月～）

② 携帯電話・小型電子機器の回収「めぐりケータイ」に取り組み、鉱物資源のリサイクルを実施しました。

取り出したレアメタルの売却利益はフィリピンボ村の鉱山開発跡地の緑の回復事業への寄付になります。

回収台数 23 台（前年度 44 台）

③ 羽毛循環システムを推進する「グリーндаウン・プロジェクト」の協力店となり、ダウン 50%以上の羽毛製品の回収を進めました。回収数：羽毛布団 25 枚（前年度 9 枚） ダウンコート 43 枚（前年度 15 枚）

(5) 感染予防対策を徹底し、安心安全なショップづくりを心がけました。

皆で話し合いながら密にならないレイアウトに変更し、消毒を徹底し、不要品の廃棄も適宜行いました。

イベントなどの自粛により外に向けての活動は難しく、新しい顧客層の開拓はできませんでした。

(6) ボランティア、スタッフ、運営メンバーにとって居心地のよいバックヤードにするように努めました。

休憩は 1 人ずつ取るなど、新型コロナウイルス感染予防対策をしました。

(7) 2021 年 4 月からの総額表示義務化への対応をすすめました。

(8) 定期的な危機管理対策を確認しました。

新たに新型コロナウイルス感染拡大防止のためのショップマニュアルおよびガイドラインを設置し、ボランティアに周知しました。星川店の防災対策のためレイアウトを変更し消火器の取り替えも行いました。

(9) LINE による県の感染症対策に登録し、店頭にポスターを掲示しました。

【日時】通年

【場所】WE ショップほどがや星川店・天王町店・その他保土ヶ谷区内

【従事者人数】理事・ショップスタッフ・リユースリサイクル部会 15 人 リメイク・ぞうり・さきおりチーム 12 人

【受益対象者】主に保土ヶ谷区内の市民

【支出額】13,209,842 円

II アジア等における市民、とりわけ女性の生活向上と自立のための活動を支援する事業（民際協力事業）

(1) 支援協力が必要な地域や人々に適切な支援を検討しました。支援先については、支援・平和チームで事前検討し、理事会で以下のプロジェクトへの助成を決定しました。

カンボジア	ゆたかで幸福なコミュニティ（S3）の構築プロジェクト（ポンロック・バイトーン有機農園学校）	150,000 円（助成金） 6,000 円（募金）
パキスタン	平和にユナイト！パキスタンにおける青少年の地域平和活動とアフガニスタンとの連帯 （一般社団法人平和村ユナイテッド）	100,000 円（助成金） 14,987 円（募金）
アフガニスタン	地域教育/識字アクション（認定 NPO 法人日本国際ボランティアセンター）	32,270 円（オレンジ貯金箱による募金 13 名）

合計 303,257 円

◆ゆたかで幸福なコミュニティ（S3）の構築プロジェクト（カンボジア）◆

（活動団体：緑の芽有機農園学校） 【当事業への支援 3 年目】

カンボジアでは人口の 6 割以上の人々が農業を生業としていますが、農産物の多くは輸入品で農家の収入増加につながらないため出稼ぎが多く、借金を抱えている農家も増え、都市部も含めて借金 1 人あたりの額は世界一という現状です。こうしたなか、緑の芽有機農園学校では若者へ有機農業の能力を高める研修を行い、市場販売への道を開き、出稼ぎに頼らず地元で豊かなコミュニティづくりをするプロジェクトを進めています。

2020 年度事業報告

8 県で農家のサポート活動が行われ、直接約 500 人、有機米栽培グループリーダーを通じて間接的に約 400 人の農家と活動しました。プロジェクトコーディネーターは、毎週すべての対象県の農家を訪問し、実践のアドバイスをしました。コロナ禍でなかなか農家と会うことが困難な状況の中、有機農産物栽培の実践ビデオを 38 本制作し、SNS による発信で有機農業の栽培事例が広く共有され、農家同士や消費者、売買人とのつながりも生まれました ■ 決算報告：21,650 ドル（約 2,283,285 円） WE21 ほどがやからの助成金額：20 万円

2021 年度計画

有機栽培の生業を続けたい若者（農家の子ども）が専門的研修を受けられる機会を提供、実践できるように 5 県の潜在的な小規模農家と活動する。具体的には 1000 人の農家が研修と助言を受けられるように、また農家が 100 の実演ができるようにする。若者 25 人が有機農園学校での研修できるよう支援する。100 人の農家と消費者が緑の芽有機農園学校を訪れる学習ツアーを主催する。プンベン自然食品店、小売店、地元の市場などへ農家をつなげる仲介、促進をする。さらに、短編ビデオを 40 本制作し、数十万人に届くよう SNS に掲載するなど。WE21 ほどがやからの助成金は研修支援、ビデオ制作などに活用される予定です。

支援を決定した理由

有機農業の促進により農村社会の持続性が高まり、健全なコミュニティづくりと若者リーダーの育成が進むことを期待する。

■ 総予算：19,850 ドル（約 212 万円） WE21 ほどがやからの助成金額：15 万円 募金：6,000 円

◆平和にユナイト！パキスタンにおける青少年の地域平和活動とアフガニスタンとの連帯（パキスタン）◆

（活動団体：平和村ユナイテッド） 【当事業への支援 2 年目】

紛争の絶えないパキスタン、アフガニスタンで「平和は現地の人びとがつくる」という観点で、日常的にある戦争、争い、暴力の解決のため、平和構築に取り組む青年たちや女性たちのエンパワーメントを支援し、両国の連帯を進めるプロジェクトです。パキスタンとアフガニスタンの国境地帯の州都ペシャワールを活動場所とし、現地 NGO の

パートナー団体 YVO(Your Voice Organization)の活動を支援しています。

2020 年度事業報告

平和や非暴力に関する冊子を作成、各地域から 2 名の平和活動担当者を選び、学び合いのワークショップを行い、参加者からは若者の団結を強めるのに重要な役割を果たしたと感謝されました。女性の会は男性と分けて実施され、女性の権利と役割、紛争や暴力解決の仕組みについて学びました。4 つのピースアクション（伝統格技、戦争遺児支援、マラソン、ブッククラブ）や平和のアート大会を実施することで、笑顔のコミュニケーションが生まれ相互理解の場をつくることができました。今年度は現地への訪問ができず、オンライン形式で現地とのやりとりが進められました。計画はほぼ予定通りに実施されています。

■決算報告：4,739,800 円

WE21 ほどがやからの助成金額：10 万円

2021 年度計画

紛争地の研修参加者を出来るだけ男女同数を目標とする（対象者計 22,600 人）。青少年のワークショップ、地域平和活動・ピースアクション、パキスタンとアフガニスタン青年間の対話、女性の権利向上やエンパワーメントの議論と啓発、アフガニスタンの青少年との連帯のためのオンラインでの効果的なキャンペーンとコミュニケーション能力のトレーニング などを実施する。

支援を決定した理由

紛争が続く平和を語るのが困難な社会のなかで、多様な立場の人々が共に学び合う場をつくり、意識啓発を図る活動は平和な社会をつくるうえで基盤となる活動であり、両国の若者の相互理解と連帯がすすむことを期待する。 ■総予算：約 617 万円 WE21 ほどがやからの助成金額：10 万円 募金：14,987 円

◆フィリピン ギブガン郡ルボ村での鉱山跡地の環境回復事業（通称 BGA）◆

（活動団体：シュントック財団）【当事業への支援 10 年】

2020 年度事業報告

鉱山開発によって環境を破壊されたフィリピン・ルボ村の住民たちが、主体的に自分たちの生活環境と生活手段を取り戻し、住民組織の向上を図れるようにするこの事業は、植林活動、植生調査、環境フォーラムなどの実施により、この 10 年で行政との連携も進み、緑の回復から有機農業への実践につながる成果がありました。残念ながら 2020 年度はロックダウンにより移動手段も制限され、収入基盤である有機野菜や堆肥の販売も中止されました。しかし困難な状況のなかでも感染予防に気をつけながら、時間とお金を有効に使い、定例ミーティングや郡行政へのロビー活動、苗木場の管理、植林活動などを少しずつ実施しています。

今年度で事業は終了となりますが、今後も BGA 連絡会（WE21 グループ 9 地域）ではルボ村の住民組織の自立を見守り、友好関係を継続することを確認しました。そして、携帯電話・小型電子機器の回収など、これからもできることで協力していきます。

■決算報告：475400 ペソ(約 1,036372 円) WE21 ほどがやからの助成金額：20 万円

◆アフガニスタン地域・識字アクション◆

（活動団体：認定 NPO 法人日本国際ボランティアセンター）

タリバンにより女子教育が禁止されていたアフガニスタンで、15 歳以上の若者と成人に対する識字教育に取り組んできました。2020 年 2 月にアメリカとタリバンの和平交渉が一定の合意が得られ 9 月に和平交渉が開始したが、逆にタリバンによる暴力は激しくなっています。コロナ感染拡大により仕事がなくなり貧困者も増加しています。識字教育はマスクをつけ間隔をあけて座って実施。教科書は JICA と政府教育省が作ったものを使用していま

す。女性の教室では日常生活のスキルをつけるため料理レシピを作成して練習したのが好評でした。識字教育の大切さを広げるために先生がコミュニティのなかで伝えるようにしています。生徒登録は300人に達しましたが、出席率は6~8割。男性は日雇い労働を優先するためドロップアウトが多いのが課題です。

今年度でJVCのアフガニスタン事業は終了し、現地NGO団体「YVO」が事業を引き継ぎます。

■決算報告：10,126,439円

WE21ほどがやの募金額 32,270円

(2) 同じプロジェクトを支援する地域NPOとの連携しました。

- ①アフガニスタン連絡会で情報を共有し、報告会に参加しました。(オンライン会議)
- ②ジンジャーティ(森育ちのしょうがパウダー)ミーティングに参加しました。(オンライン会議)
- ③支援先報告会(平和村、カンボジアS3)開催の時に、他地域へも参加呼びかけをしました。

(3) 「貧困をなくそう」をテーマにキャンペーンを実施しました

- ①コロナ禍で生活困窮になった人々への支援、寄付を呼びかけました(7月~)

支援先を下記の3団体にしました。チラシやHP、会員への手紙、アワーズでの広報などで支援を呼びかけたところ、指定寄付につながる成果がありました。

10月の「貧困なくそうキャンペーン」でも引き続き支援のアピールをしました。コロナ禍で仕事を失う人が増えて貧困が身近な問題になり、店内レイアウトを工夫し、チラシ配布や3つの募金箱を置いたことが、団体への関心をさらに高めるきっかけになったと思います。

貧困なくそうデーの売上寄付額(リメイク品・フェアトレード品売上を除く)

星川店(10/16) 34,530円 天王町店(10/17) 35,755円

◆認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい

ホームレスや派遣労働者、生活保護受給者などの自立支援を行っている団体で「経済的貧困」「人間関係(つながり)の貧困」という2つの視点から貧困の解決をめざし、特に今年はコロナ禍のなかで社会状況に迅速に対応した活動を強化しています。WE21ほどがやは2016年度から支援を行っています。

◆認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ

親が子どもと一緒に楽しく生き、社会で活躍できるよう、親と子ども双方に支援を行っています。新型コロナ感染拡大直後から生活に追い詰められたひとり親のために「だいじょうぶだよ!基金」を設置し、必要な家庭約22,000件に食料や生活用品を配布しました。困窮する子育て世帯に給付金を支給する署名5万筆を政府に届けました。

◆NPO法人移住連と連帯する全国ネットワーク(移住連)

日本に暮らす移民や移民ルーツを持つ人々の権利や尊厳が保障される法制度の確立を目指して、入管法反対キャンペーンなどの政策提言活動を中心に行っています。コロナ感染拡大後、公的支援を全く受けられない難民申請者や公的支援にアクセスできない移民者に緊急の現金給付を行っています。

- ◆その他物品寄付 ・寿地区センター ・保土ヶ谷区社協 ・地域活動支援センター トラック
・放課後デイサービス はるの家 ・特別養護老人ホーム ラポール三ツ沢

(4) 「貧困なくそうキャンペーン」月間にフードドライブを実施しました(10月)

10月1ヶ月間、店頭で実施しました。

「フードバンクかながわ」へダンボール3箱(星川1天王町2)を送りました。

(5) “3.11 を忘れないキャンペーン”を継続しました。

◆福島ほかほかプロジェクト

認定 NPO 法人 FoE Japan が運営する「福島ほかほかプロジェクト」では、放射線量の高い地域からの親子を対象に、自然に触れて過ごせる猪苗代での短期間の保養プロジェクトを提供しています。食事づくりや自然体験、交流を通して、子どもたちは線量を気にせずのびのびと遊び、お母さんたちにとっては被ばくについて語り合ったり悩みを分かち合ったりするリフレッシュの場となっています。この1年はコロナ禍と重なりましたが、2021年1月には、全員 PCR 検査を受けてから徐々にプロジェクトを再開し、スキーを楽しんだとのこと。WE21 ほどがやは2012年から売上寄付（毎月11日）や店頭募金で支援を継続しています。

売上寄付：星川店 82,714 円 天王町店 59,695 円 その他匿名寄付：757 円

店頭募金：星川店 23,400 円 天王町店 19,043 円 総額 185,609 円

◆東北の生産地を応援する食品の販売

年に2回、海産物（宮城県気仙沼市 ムラカミ）レトルトカレー（岩手県宮古市）、菓子など東北支援品を販売し、お客様に共感を広げました。 売上合計 125,749 円

(6) 支援プロジェクトの活動報告会の実施しました。感染予防に努めながら、会員と関係者のみへの呼びかけで開催しました。

①平和村ユナイテッド報告会

2020年12月1日（土）10:00～12:00 ほどがや市民活動センターアワーズ 18名参加

報告者：一般社団法人 平和村ユナイテッド代表理事 小野山亮氏

紛争や暴力が絶えない厳しい治安状況のなかで、平和を希求する現地の青年たちの自主的な取り組みや女性たちの学び合い、戦争遺児たちへの心のケアなど、様々な平和アクションの報告があり、参加者たちの心に響く報告会になりました。

②カンボジア S3 報告会

2021年2月28日（日）10:00～12:00 ほどがや市民活動センターアワーズ 12名参加

報告者：米倉雪子さん（昭和女子大国際学部国際学科准教授）

カンボジアの最新の国勢調査やコロナの状況、農村の若者たちを育成する有機農園学校のプロジェクトなど盛りだくさんのお話と有機農法を学ぶ現地の人たちの写真に、カンボジアの農村の暮らしに思いを馳せました。

(7) 国内のスタディツアー企画 コロナ禍により実施できませんでした。

(8) 情勢に応じた緊急支援を実施しました。

7月に熊本豪雨災害緊急支援募金を店頭で行いました（7/10～8/8）

21,983 円を BRIDGE KUMAMOTO 基金に寄付しました。

認定 NPO 法人自立生活サポートセンター・もやい	184,237 円（寄付+店頭募金 14,809 円） ・コロナ禍による緊急支援 貧困なくそうキャンペーン
認定 NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ	121,511 円（寄付+店頭募金 22,083 円） ・コロナ禍による緊急支援 貧困なくそうキャンペーン
NPO 法人移住者と連帯する全国ネットワーク	95,586 円（寄付+店頭募金 16,158 円） ・コロナ禍による緊急支援 貧困なくそうキャンペーン

福島ほかほかプロジェクト (認定 NPO 法人 FoE Japan)	185,609 円 ・毎月 11 日の売上の 30%と 3/11 売上全額 142,409 円 + 通年の店頭募金 43,200 円
BRIDGE KUMAMOTO 基金 (一般財団法人くまもと未来創造基金)	21,983 円 ・熊本豪雨災害緊急店頭募金 (7/10~8/8)
公益社団法人フードバンクかながわ	食品 3 箱 寄付金 3,300 円 ・10 月貧困なくそうキャンペーン フードドライブ
寿地区センター	衣類雑貨など ダンボール 3 箱
保土ヶ谷区社会福祉協議会	政府配布の布マスク 72 枚
学校法人アジア学院	古切手
地域活動支援センター トラック	T シャツ (リメイク作業用)
放課後等デイサービス はるの家	文房具
特別養護老人ホーム ラポール三ツ沢	タオル (介助用)

合計 612,226 円

(9) フェアトレード品販売を充実しました。

フェアトレードフェアは 12 月の 1 回のみになりましたが、フェアトレードに関心ある初めてのお客様がみえるなど手応えがありました。ジンジャーティの販路拡大はできませんでしたが、「森育ちのしょうがパウダー」にリニューアルされたこともあり、地域へのアピールを広げていきます。

- ①衣類・クラフト品 バングラディッシュ、ネパール (シャプラニール)
- ②森育ちのしょうがパウダー フィリピン (ウバパス・ダイコン・ランバダ住民組織 シュントック財団)
- ③コーヒー 東ティモール・ラオス・ペルー・フィリピン (珈琲工場 & 百屋)
- ④チョコレート・ジャム・ドライフルーツ ペルー、ボリビア (ピープルツリー)
- ⑤紅茶 インド、アフリカ (わかちあいプロジェクト)
- ⑥シサムコーヒー フィリピン (シサム工房)
- ⑦はちみつ マラウィ共和国 南スーダン (はちみつ屋五タラント)
- ⑧オリーブオイル パレスチナ (パレスチナ・オリーブ)
- ⑨オリーブ石けん パレスチナ (フレンズオブアシーラ)
- ⑩黒糖クッキー フィリピン (わかちあいプロジェクト)
- ⑪クラフト品 バングラディッシュ (ピープルツリー)

12 月 フェアトレードフェア実績 : 44,838 円

年間フェアトレード品売上 : 512,688 円 昨年度実績 : 581,790 円

(10) フェアトレードフォーラムの再企画

- ・フォーラムの開催は今年度は見送りとしました。
- ・全国フェアトレードショップリストの HP リニューアル (1/25~) に際し天王町店の情報を更新しました。

【日時】通年

【場所】横浜市保土ヶ谷区

【従事者人数】理事・ショップスタッフ 13 人

【受益対象者】市民 支援先の住民

【支出額】923,549 円

Ⅲ 地域市民の国際的な問題意識の向上を図る事業(共育事業)

(1) WE 講座は残念ながら今年度は開催できませんでした。

(2) 会員、ボランティア、地域市民との交流と相互の共育を図りました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、支援先報告会は会員・ボランティア限定の呼びかけで実施しました。チラシを郵送し情報を伝えました。

(3) ショップに募金箱を置き、寄付文化を広げる取り組みをすすめました。

①コロナ禍により生活困窮になった人たちへの寄付の呼びかけを行いました。店頭で募金箱を 3 個置き、それぞれの団体の活動パンフを掲示して、選択して募金ができるようにしました。新しい支援の形を示すことができました。

・自立生活サポートセンター・もやい ・しんぐるまざあず・ふぉーらむ ・移住者と連帯する全国ネットワーク

②福島ぽかぽかプロジェクト募金箱は常設しています。

(4) その他

・「IR カジノの是非を問う住民投票の直接請求条例制定に向けた署名活動」(横浜未来アクション) に賛同し、受任者 10 名が署名を呼びかけ、88 筆を提出しました。(9/4~10/30)

・「ミャンマー市民の人権を守るためのアクションを求める共同声明書」の賛同団体になりました(3/25)

・情報に応じて様々なオンライン講座・フォーラムへ参加しました。

①9/8 横浜未来アクション ②10/22 グローバル連帯経済世界大会 ③10/23 コロナ禍と SDG s

④11/29 アクションポート横浜 ⑤12/7 with コロナの時代における多文化共生社会の課題と展望

⑥1/22 アフガニスタン事業報告会 ⑦2/10 地雷廃絶日本キャンペーン

⑧2/11 アイダさんと話そう ⑨2/20 SDG s よこはま CITY~国際協力・多文化共生化からのアプローチ

⑩2/22 カンボジア市民フォーラム ⑪2/26 日本チャリティショップネットワーク RR 勉強会

⑫3/16 日韓交流カフェ

【日時】通年

【場所】主に横浜市保土ヶ谷区

【従事者人数】理事・ショップスタッフ 13 人

【受益対象者】市民 支援先の住民 会員 ボランティア

【支出額】30 円

Ⅳ WE21 ほどがや事業の広報普及を図る事業(広報事業)

(1) ほどがやニュースの作成

①2019 年度支援報告とリユースリサイクル活動報告チラシ作成・配布しました。(8/6~)

②ほどがやニュース 66 号を「20 周年特大号」とし、2 月に発行しました。(1800 部)

お客様、地域の活動団体、近隣、WE21 ジャパン地域代表者、支援先などの関係者へ配布しました。

ニュースは、広報チームメンバーが中心となり、初めて読むお客様の目線に立って意見を言い合い、ニュースを作成しました。66号に掲載した、「わたしとWEショップ」コーナーが好評で、連載にしたいと意見が出ています。“皆で作っていくショップ”として、WEショップをより身近に感じてもらえるのではないのでしょうか。寄付提供者・お客様・ボランティア、常連の方など、ショップの力となる人に投稿してもらい、あるいはショップにご意見箱を設置して「わたしのエコライフ」とか「大好きなWEショップ」等の用紙を用意して、それを無記名・記名で載せていく・・・など、今後アイデアとして考えていきます。広報チームの増員が課題です。

(2) 店内掲示の態勢づくりに努めましたが、有効的な掲示スペースの確保が課題です。

①2019年度支援報告とリユースリサイクル活動報告を掲示しました。

②「貧困なくそうキャンペーン」「3.11を忘れない」の支援先の情報を掲示しました。

(3) セールやイベントチラシを作成しました。

①フェアトレードフェア ②感謝券 ③平和村報告会(60部) ④カンボジア報告会(60部)

(4) WE21 ほどがやのホームページをタイムリーに更新しました。

お知らせページ 14回更新 星川店 14回更新 天王町店 11回更新

その他 2019年度分情報公開(事業報告、会計報告 支援報告) 5月
リメイク活動ページ写真入れ替え ほどがやニュース66号の掲載

(5) 会員・ボランティア・寄付者へタイムリーな活動報告や情報提供を行いました。

会員(+賛助会員)へニュース、情報、チラシ、報告書等を送付しました。

①5月4日 総会案内 議案書 書面議決書

②6月25日 総会議事録 会費納入書 寄付品控除チラシ、アフガニスタンみらい貯金チラシ

③9月23日 貧困なくそうキャンペーンチラシと支援団体情報、
2019年度支援報告とリユースリサイクル活動報告

④11月25日 平和村ユニテッド報告会 フェアトレードフェアチラシ

⑤12月21日 WE21年次報告書 めぐりめぐる 年末の挨拶

⑥2月12日 ほどがやニュース20周年記念特大号 カンボジア報告会チラシ

(6) その他 タウンニュースに新年挨拶を掲載しました。(1月1日号)

【日時】通年

【場所】主に横浜市保土ヶ谷区 神奈川県

【従事者人数】理事・ショップスタッフ 広報チーム15人

【受益対象者】市民

【支出額】92,255円

V 事業を実践するための組織活動

1) 持続可能な組織づくり

(1) 理事会を定例開催し組織の充実と活性化を図りました。(理事会12回 臨時2回 開催)

(2) 会員拡大への呼びかけ、拡大は進みませんでした。

正会員拡大目標：個人(年間2,000円) 60人→実績57人 団体(年間10,000円) 0

賛助会員拡大目標：個人(年間500円 一口以上)50人→実績12人(13口)

団体(年間 3,000 円) 3 団体 →実績 1 団体

- (3) リユース・リサイクル部会は年 4 回、支援平和チームは年 9 回開催し、理事会へ提案、報告をしました。
- (4) ボランティアは、星川では 3 名、天王町店では 1 名増員しました。コロナ禍においてボランティアの方たちのサポートは大きな力と励みになりました。天王町店ではボランティア不足が継続的な課題になっています。
- (5) 会員へ寄付の呼びかけをしました。
 - ・会員やその他の方からのご寄付として、指定寄付などを合わせて 1,088,804 円を受領しました。
 - 支援先への寄付、WE21 ほどがやの運営に有効に活用させていただきました。
 - ・ゆうちょ銀行総合口座の開設をしました (5/25)
- (6) 活動を持続させるために、新型コロナ関連の各種給付金の申請を行いました。
 - ・持続化給付金 200 万円 ・神奈川県新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金 40 万円、
 - ・家賃支援給付金 139 万 2,000 円 ・天王町店の横浜市商店街等補助金 10 万円
 - ・雇用安定助成金 55 万 6,055 円
- (7) 20 周年を記念するイベントは、新型コロナウイルス感染拡大のため実施できませんでした。ほどがやニュース 66 号「20 周年特大号」に「20 年のあゆみ」、会員の方の思い出を掲載しました。

2) 持続的なショップにするためにスタッフの働き方、雇用のありかたの検討

- (1) 雇用契約の締結 10 月から時給を 1,012 円に改定しました。
 - 次年度に向けて、雇用契約、賃金支払い形態の見直し (月給制から時間給制に変更) を行いました。
- (2) 雇用者との面談を実施しました。
- (3) スタッフミーティングを毎月実施し、理事会に報告しました。
 - 天王町店スタッフ研修 (エコものセンターと WE ショップ海老名見学) を実施しました。(8/19)

3) WE21 ジャパン地域 NPO、生活クラブ運動グループ、地域の団体との連携したまちづくり

- (1) 2020 年度 WE21 ジャパンとの合意を締結し、委託費を支払いました。
 - ・リユースリサイクル環境事業委託費 750,588 円 (税込)
 - 商標使用料 240,000 円 ネットワーク推進費 14,140 円 合計 1,004,728 円
 - ・チャリティショップ白書発行のための日本チャリティショップネットワークのアンケート調査に協力しました。
 - ・2020 年度 WE21 ジャパン第 1 回基礎研修 (11/20) へ参加しました (天王町店スタッフ 1 名)
- (2) 職場体験、就労体験の場として受け入れに貢献しました。
 - ・毎年 1 月に協力していた岩崎中学校の職場体験は新型コロナ感染拡大のため中止になりました。
 - ・天王町店に就労支援として女性 1 名 2020 年 1 月～2021 年 1 月 (4 期) 週 3 回受け入れを行いました。
- (3) ほどがや生涯学習フォーラムまなぶん祭りに実行委員会に実行委員として参加しました。
 - ・今年度は「まなぶん祭り」の実開催は中止になりましたが、実行委員会で 20 周年記録集を作成し、参加団体として WE21 ほどがやの活動を紹介しました。
 - ・保土ヶ谷駅アーバンアートのまなぶん祭り展示のなかで、リメイク品を出展しました。(2/5～2/17)
- (4) ほどがや市民活動センターアワーズの協働運営会議に参加しました。
 - ・ほどがや街の学習応援隊の区役所での活動 PR 展にリメイク品を出展しました。(12/19～1/7)
- (5) 保土ヶ谷区魅力ある地域まちづくり事業「ほどがや 人・まち・文化振興会」に参加しました。

・地域内循環の拠点として、毎週火曜日の地場野菜の販売「朝市街道」（ほどがや産直便）に参加協力しました。天王町店も10月から参加し、徐々に定着しています

(6) 保土ヶ谷・西まちづくり協議会の活動はありませんでした。

(7) 横浜市内在住65歳以上の方対象の割引制度「濱ともカード」利用日を月2回実施しました(1日、21日)。濱ともカード年間利用者数は、星川店98名、天王町店38名でした。

【日時】通年

【場所】主に横浜市保土ヶ谷区

【従事者人数】理事・ショップスタッフ13人

【受益対象者】市民 会員 ボランティア

【支出額】579,644円

以上